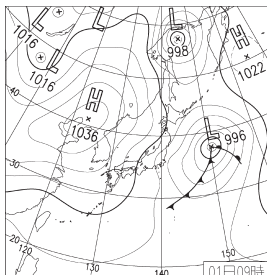


日々の天気図

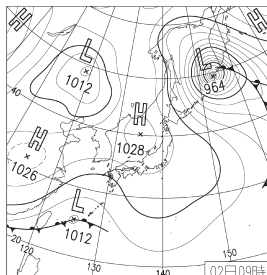
— No. 131

2012年12月

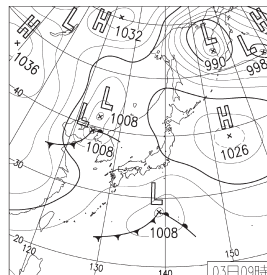
- ・9～12日頃・24～26日頃、北からの強い寒気が流れ込み、西～北日本日本海側を中心に広い範囲で大雪。
- ・寒気が流れ込んだ影響で全国的に低温となった日が多く、東日本の月平均気温はかなり低かった。
- ・月降水量は全国的に多く、山口では12月の多い方からの1位を更新。
(気象庁予報部予報課)



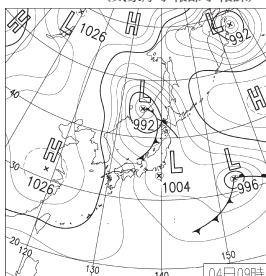
1日(土)北陸、関東の各地で初雪
冬型の気圧配置や寒気の影響で、東～北日本と西日本日本海側で雨や雪。前線の影響で沖縄・奄美で雨。金沢・新潟・宇都宮・水戸で初雪、水戸では平年より30日早い。



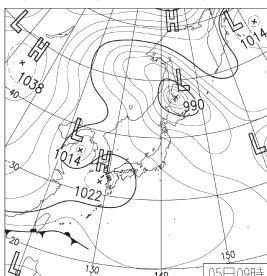
2日(日)全国的に気温上がらず
北日本は太平洋側で概ね晴れたが、日本海側は曇りや雨や雪。西～東日本では太平洋側を中心に雨。全国的に最高気温が平年より低く、西～東日本では7～8℃も低め、津で初水。



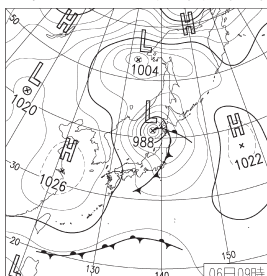
3日(月)関東は寒い一日
大気の状態が不安定となった影響で西日本は雨や雷、日照がなかった関東を除いて最高気温はほぼ平年並に戻る。広島・和歌山などで初霜、松山・鳥取・新潟で初水。



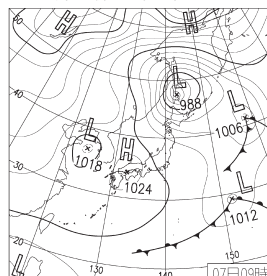
4日(火)北日本 大荒れの天気
発達した低気圧の影響で北海道を中心に天気は大荒れ。北海道各地で12月の1・3時間及び日降水量の1位記録を更新。北海道斜里町宇登呂で最大瞬間風速33.8 m/s、松江など初雪。



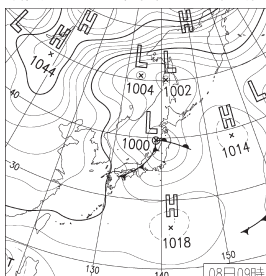
5日(水)西～北日本 暴風と高波
発達した2つの低気圧の影響で日本海の海上は大しけ。島根県浜田市大辻町で最大瞬間風速30.2 m/s。関東～北海道太平洋側は概ね晴れ、その他は曇りや雨。宮崎・高知で初水。



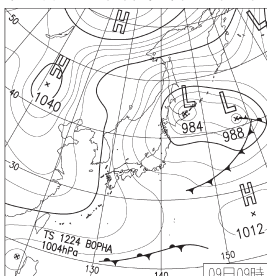
6日(木)低気圧が急速に発達
低気圧が急速に発達しながら日本海を通過。九州～北陸は雨や雪、北日本では暴風雪。山形県酒田市飛島で最大瞬間風速41.3 m/s。北陸や西日本等で初雪。北海道様似町で竜巻。



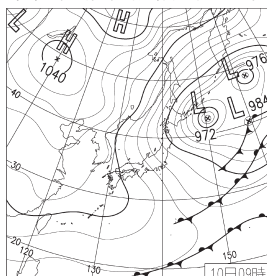
7日(金)北海道大荒れ
低気圧に近い北海道で大荒れの天気。北海道雄武で最大瞬間風速36.7 m/s。寒気の入った西日本各地で初水。三陸沖でM7.3の地震。東北などで震度5弱。石巻市で98 cmの津波。



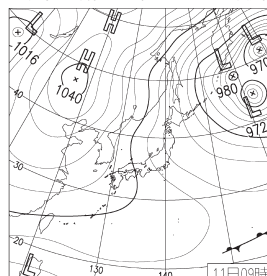
8日(土)低気圧 本州を横断
秋田の上空5000 m付近に-40.5℃の寒気。西～北日本の日本海側で大雪。北陸～北海道は大しけ。新潟県粟島で最大瞬間風速33 m/s。岐阜・甲府などで初雪。新潟でひょう。



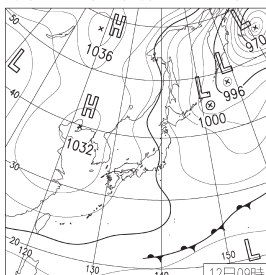
9日(日)冬型の気圧配置強まる
最高気温は全国的に平年より低く、東北でも真冬日を観測。盛岡で平年より6.7℃低い-1.2℃。西日本などの各地で初雪や初冠雪。台風第24号は熱帯低気圧へ。



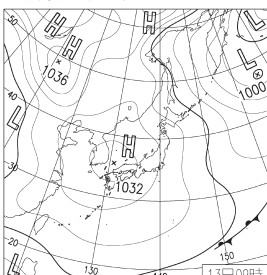
10日(月)東京で初霜・初水
西日本以北の日本海側で大雪・暴風。北海道上川町栄町で最深積雪117 cm、観測史上1位。東京都神津島空港で最大瞬間風速27.3 m/s。西日本の最高気温は平年より約6℃低い。



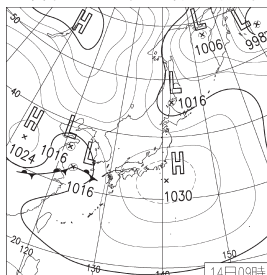
11日(火)冬型の気圧配置続く
西日本以北の日本海側は雪や雨。新潟県魚沼市入込瀬での1日での3日間に175 cmの降雪。長野県上田市菅平で最低気温-20.2℃。群馬県などで山岳遭難相次ぐ。福井でひょう。



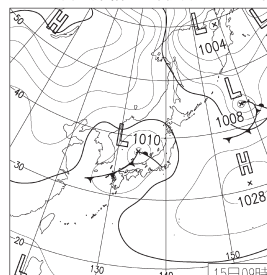
12日(水)日本海側は雪や雨続く
冬型が続く日本海側は雪や雨。太平洋側は晴れ。全国的に最低・最高気温とも平年より低く、北海道帯広の最低気温は平年比5.8℃低い-14.1℃。松山で初雪、和歌山で初水。



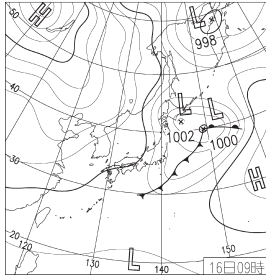
13日(木)冬型緩むが寒さ続く
高気圧に覆われ放射冷却の影響も加わって、全国705地点で真冬日。北海道滝上で-23.4℃。日中の気温も上がらず。最高気温は全国的に平年より低く124地点で真冬日。徳島で初水。



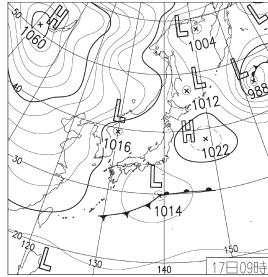
14日(金)西日本で雨広がる
北日本は曇りで日本海側は北陸まで雪や雨。西日本は曇りから雨に。東海～関東は高気圧に覆われ概ね晴れ。徳島・神戸で初霜、神戸で初水。鹿児島県阿久根で43.5 mm/1 h。



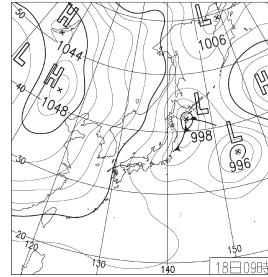
15日(土)西日本暖かい朝
低気圧が本州を通過。九州～東北は概ね雨や曇り、北海道は曇り、沖縄は晴れ。暖気が入った西日本を中心に最低気温は平年より6℃前後高く、鹿児島では7.1℃高い13.8℃。



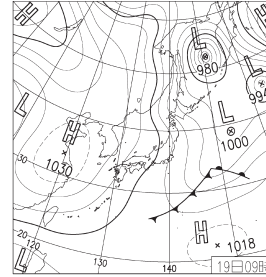
16日(日)第46回衆議院選挙
北日本は冬型の気圧配置となり、北海道中心に雪。中国・四国～関東は太平洋側を中心に概ね晴れ。沖縄・奄美～九州南部は東シナ海に進んだ気圧の谷の影響で曇りや雨。



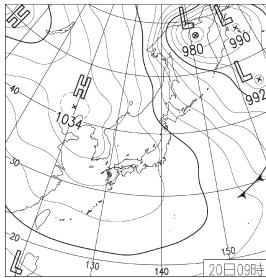
17日(月)概ね曇り所々で雪や雨
本州付近は気圧の谷が通過。北陸～東北では一時晴れ間も広がるが、北海道の所々で雪。西～東日本の所々で弱い雨。関東の最高気温は平年より低め。大分・岐阜でイチョウ落葉。



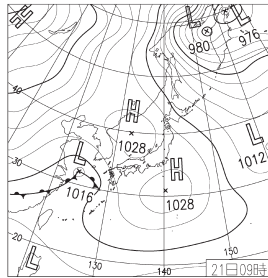
18日(火)冬型の気圧配置強まる
朝の最低気温は全国的に11月中～12月上旬並と高く、本州の日本海側は昼過ぎまで雨。寒冷前線通過後は冬型の気圧配置が強まり、西日本から寒気が入って日本海側は雪に。



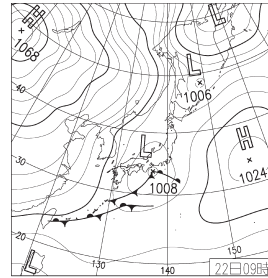
19日(水)厳しい冷え込み
上空の寒気により北海道日本海側南部は大荒れの天気。北海道石狩市浜益で最大瞬間風速31.6 m/s。最高気温は全国的に平年より低く、函館市美原では平年比6.8℃低い-4.2℃。



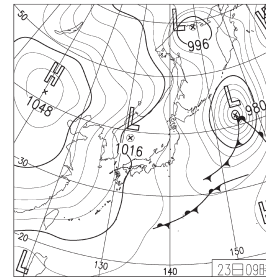
20日(木)全国的に冷え込み続く
北日本中心に冬型の気圧配置が続く、全国的に寒い一日。北海道本別町新町の最低気温は-24.4℃と平年より11.8℃低い。冬日691地点。日本海側は雪、太平洋側は概ね晴れ。



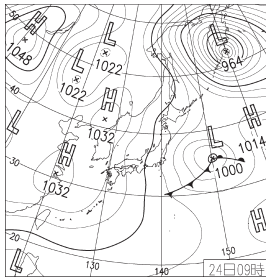
21日(金)日本列島温度差約50℃
九州では午前中から雨、夜には北陸・東海まで雨。北日本は日本海側中心に雪。高知県土佐清水市三崎で51 mm/1h。北海道陸別最低気温-25℃。沖縄県石垣市登野城最高気温25.2℃。



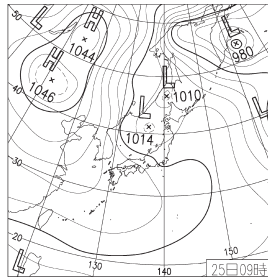
22日(土)冬型の気圧配置へ
東海道沖を低気圧が進み、次第に冬型の気圧配置へ。四国～紀伊半島の沿岸で強い雨。和歌山県南紀白浜空港で32.5 mm/1h。内陸の標高の高い所では雪の所も。



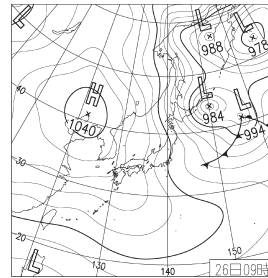
23日(日)北陸で強風
寒気の流入が始まり日本海側は雨や雪。北陸は大気の状態が不安定となり、金沢で最大瞬間風速26.1 m/s。北海道喜茂別で最低気温-26.1℃など北海道の各地で-20℃以下。



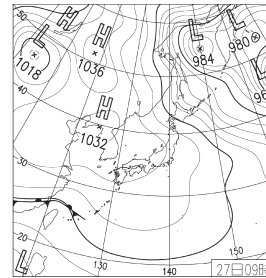
24日(月)日本海側で大雪
上空に強い寒気が流れ込み西～東日本の日本海側各地で大雪。長野野沢温泉で日降雪量68 cm。最低・最高気温とも全国的に平年より低く、764地点で冬日、307地点で真冬日。



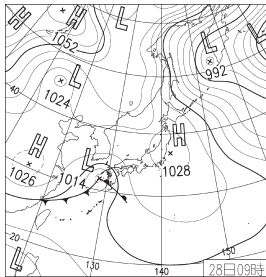
25日(火)台風第25号発生
寒気が流入した影響で冷え込みが厳しく、北海道旭川市江丹別の最低気温は-29.7℃と平年より16.5℃低い。745地点で冬日。日本海側は雨や雪、東海～関東は概ね晴れ。



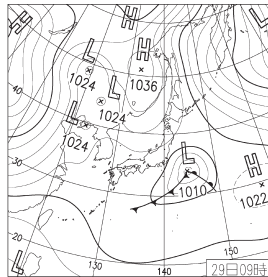
26日(水)北海道内すべて真冬日
札幌上空約5000 mで-46.5℃の寒気が入り北日本と北陸は雪。中国・北海道旭川市江丹別の最低気温は-29.7℃と平年より16.5℃低い。745地点で冬日。日本海側は雨や雪、東海～関東は概ね晴れ。



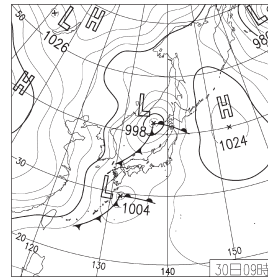
27日(木)全国的に気温下がる
北陸～北日本日本海側は雪や雨、太平洋側は晴れ。西～東日本は高気圧に覆われて晴れ。全国的に気温が低く805地点で冬日。青森市酸ヶ湯で最深積雪297 cm、12月の1位更新。



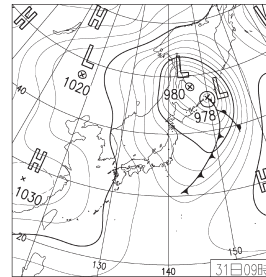
28日(金)沖縄でサクラ開花
西～東日本は雨や雪。和歌山県潮岬で52 mm/1h。北海道新千歳空港で-22.7℃等12地点で12月の最低気温記録を更新。那覇でヒカンザクラ開花、最早値更新。台風第25号熱低化。



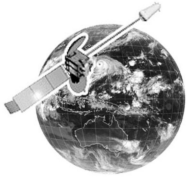
29日(土)寒さやらく
低気圧が関東の東海上に去り、全国的に概ね晴れ。西日本は気圧の谷が近づき天気は下り坂。続いていた寒さは、北日本を除きようやく和らぐ。東京都三宅島神着で45.5 mm/1hの雨。



30日(日)東海～関東 強風と高波
北日本太平洋側の海上はしげ。静岡県伊豆市天城山で44.5 mm/1hの雨。東京都三宅島坪田で最大瞬間風速34 m/s。関東甲信中心に最低気温平年比5℃前後高い。福島県他で震度4。

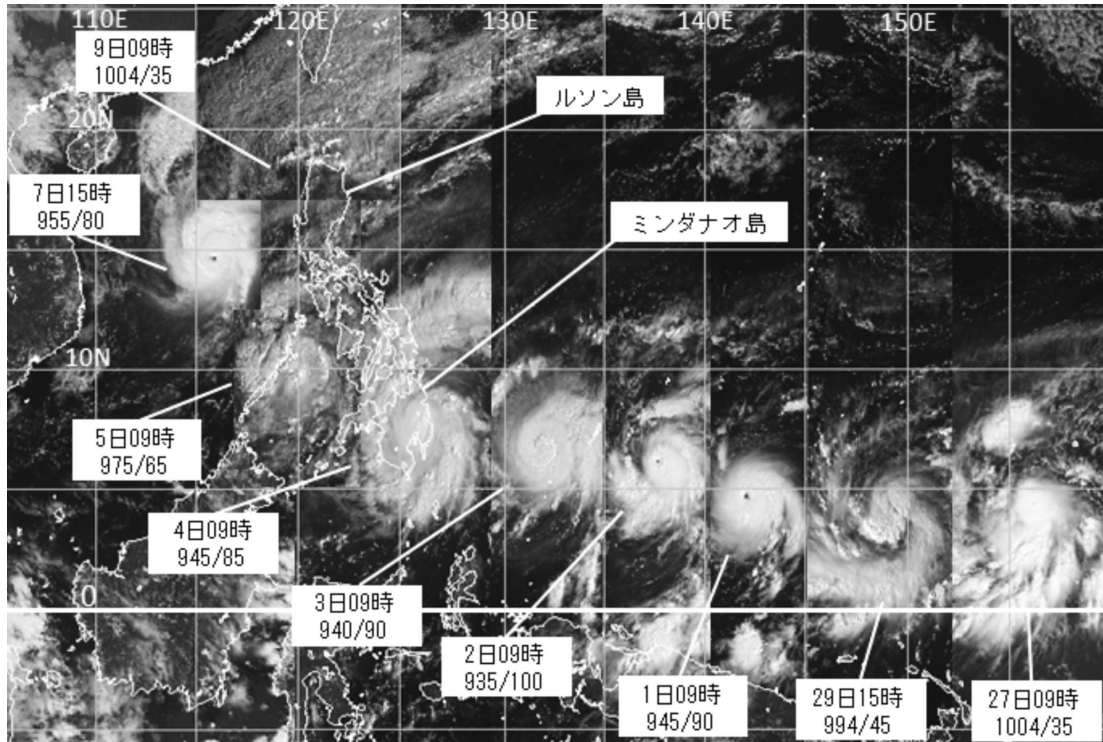


31日(月)冬型の気圧配置強まる
日本付近は強い冬型の気圧配置となり日本海側中心に雪。北海道では暴風雪。西日本太平洋側でも一部でわか雪。沖縄・奄美は曇り。北海道えりも岬で最大風速24.5 m/s。



今月のひまわり画像—2012年12月

北緯5度より南で急発達した台風第24号



第1図 2012年11月27日09時～12月9日09時（日本時間）の可視画像の合成図。日時の下の数字は、左が台風第24号の中心気圧（hPa）、右が最大風速（kt（1 kt=0.51 m/s））。

台風の発生にはコリオリ力が重要な役割を果たしており、北緯5度より南では台風は発生しないと言われることがある。ところが、実際にはこのような低緯度でも台風は発生している。台風第24号は、北緯5度より南で発生した台風として、1951年以降9個目となった。第1図は第24号の発生（2012年11月27日03時（日本時間）直後から熱帯低気圧へ変わる（12月9日15時）直前までの可視画像を合成したものである。

第24号は南半球から赤道を越える流れの影響を受けて発生し、28日15時に北緯4.8度まで北上した。その後29日21時には北緯3.4度まで南下し、再び西北西へ進むにつれて急発達した。1日09時の画像では、北緯5度より南の位置で台風の眼がくっきり見えている。同時刻における中心気圧は945 hPaであるが、1951年以降北緯5度より南で980 hPa以下にまで発達した台風は、この第24号と1970年第20号（940 hPa）の2個

のみである。

第24号はミンダナオ島に上陸する直前の4日03時には中心気圧930 hPa、最大風速100 ktにまで発達し、同日朝、同島東部に上陸した。1951年以降同島に上陸した台風としては最強で、フィリピン政府の発表（25日）によると、洪水や土砂災害などで死者1,067名、行方不明834名、全半壊家屋約22万棟となる甚大な被害をもたらされた。

第24号はミンダナオ島に上陸後一旦弱まったが、7日には南シナ海で転向しながら急速に再発達し、同日21時には中心気圧945 hPa、最大風速90 ktまで強まった。その後北上するにつれ寒気の影響を受けて衰弱し、ルソン島へ再上陸する直前に熱帯低気圧へ変わった。

（気象庁予報部予報課航空予報室 原 基）